

2020年12月期決算説明会 主な質疑応答の内容

<2021年2月12日に開催した決算説明会における質疑応答の内容を要約しています>

2020年12月期の決算概要 全体

**Q:** 営業利益が11月発表の見通し320億円から378億円に増加した理由。

**A:** カスタムポンプ事業とコンプレッサ・タービン(CT)事業で予想以上に収益が改善。固定費の減少も予想を上回った。

2020年12月期の決算概要 風水力

**Q:** ポンプ事業とCT事業における収益性改善の要因は何か。

**A:** ポンプ事業では特にカスタムポンプで収益性の改善が見られた。国内工場の生産性改善や公共事業の受注・売上が好調であったこと、中国の子会社で増収かつ利益率が上昇したことにより収益性が改善。

CT事業では選別受注やLCC(Low-cost country)からの調達額増加、自動設計の活用など一昨年前から進めてきた施策の効果により収益性が改善。

2020年12月期の決算概要 精密・電子

**Q:** 7-12月の受注が前年同期比で増加したが、地域性などあるか。

**A:** 全体的に増加。

**Q:** 10-12月にCMPの受注が増加したが、売上時期はいつ頃か。

**A:** 売上は2021年12月期。CMPの納期は比較的長い。

**Q:** サービス&サポート(S&S)が増加しているが、製品や地域に特色はあるか。

**A:** 全般的にお客様の工場稼働が非常に高く、部品需要などが増加した。

**Q:** 中国でも伸びているか。

**A:** 中国は2020年は種まきの時期。2021年に徐々に刈り取りを進めていく。

2021年12月期の見通し 風水力

**Q:** ポンプ事業、CT事業ともに前年比で受注が増加する計画。年後半から大きく回復する計画だが、手応えはあるか。

**A:** 今期は石油・ガス市場で昨年に引き続き中国が堅調であるのに加えて、新たに新興国でも設備投資が増加する見込み。

期初受注残が減少しているが、S&S のフィールドサービス(FS)の受注残は増加しており、コロナ影響が緩和されれば FS から部品販売の受注増加にもつながる。今期の前半に当期売上分の受注をしっかりとっていく。

#### 2021年12月期の見通し 精密・電子事業

**Q:** 市場環境をどうみているか。

**A:** まず、2020年12月期の市場環境はメモリ投資が期初は弱かったが、巣ごもり需要やリモートワークの増加により需要が増加し、年後半に回復が進んだ。

メモリ投資は今後も増加し、世界全体でメモリ、ファウンドリ、ロジック全ての投資が増加する見込み。2021年12月期の半導体市場における設備投資は需要が過去最高だった2018年を上回り、2021年、2022年と更にそれを超えていくと予想されている。

当社としては製品供給やお客様の次世代技術開発のサポートを確実にやっていくことが重要。

**Q:** 1-6月の営業利益率が低い要因とE-Plan2022の目標である営業利益率13.0%の達成見込みについて教えてほしい。

**A:** ドライ真空ポンプの自動化工場による採算性向上は年後半からと見込んでいることやプロダクトミックスにより、1-6月の営業利益率は前年同期並みとなる見込み。

年後半には自動化工場をフル稼働させ、採算性を向上させる。これにより2022年12月期は期初からリターンを得られる状況となり、営業利益率が更に改善する見込み。E-Plan2022の目標である営業利益率13.0%以上の達成に向けてはその他の施策も確実に実行していく。

**Q:** 売上計画は1700億円。来期以降にさらに増加しても生産能力に問題はないか。追加投資は必要ないと考えてよいか。

**A:** 今期に熊本工場(CMP)で1ラインを増設する予定。これによりカバーできる。既存の工場内に増設する。

**Q:** EUV向けの製品は既に受注しているか。

**A:** 正式な受注はまだない。今期の受注に期待している。

**Q:** EUV向けの排気システムは既に市場に出ているが、どのようにシェアを取っていくか。

**A:** 排気システムの性能は劣っておらず、省エネの性能に強みがあると考えている。そこを切り口に競合メーカーに挑んでいく。

**Q:**顧客での評価を含む案件はまだ増えているか。客層は広がっているか。

**A:**受注・売上の増加に伴いお客様の裾野も広がっており、必要なものは今後も出していく。若干増加傾向になるとみている。

**Q:**線幅が狭くなると荏原の製品のみが対応可能ということではなく、省エネで戦っていくという理解でよいか。

**A:**そのとおり。

#### その他

**Q:**世界的な流れとなっている脱炭素や政府のグリーン成長戦略に関連する事業はあるか。

**A:**脱炭素については、環境プラント事業のいくつかの納入先が焼却炉から出る排気ガスのCO<sub>2</sub>を有効利用しており、このような動きがCO<sub>2</sub>排出量の多い電力会社や焼却炉でも増加していく。当社としてもこの関連技術は広げていきたいと考えており、ケミカルリサイクル技術が最も有望。実用化に向け、2021年内には実証プラントの建設に入りたいと考えている。

**Q:**水素向けポンプの事業規模や期待感はどのくらいか。

**A:**まだ事業としてはそれほど大きくはない。現在、開発を進めると共に事業としてどのように育てるかを検討している。

**Q:**CMPは物理的に平坦化する技術だが、どのくらいの線幅まで対応が可能か。

**A:**当社としては1ナノを目指している。微細化に関してウエハーの前面を一度に研磨する平坦化技術は今のところCMP以外にはない。開発や改善は行っていく必要があるが、微細化、平坦化に関しては当面、CMPがメインの装置であり続けると考えている。

以上